

2009年度

| | | | |
|---|--|-----|-------|
| 科目名 | マスコミ論A | | |
| 担当教員 | 小川 丈治 | | |
| 配当 | 文 1・教育1・人間1 | コード | 15100 |
| 開期 | 前期 | 講時 | 月曜日5限 |
| | | 単位数 | 2 |
| 授業テーマ | 映像の見方・描き方 | | |
| 目的と概要 | 「マスコミ論」は新聞、雑誌、放送、映画などのメディア(Media=媒体)を通じて、大量の情報を不特定多数の人々に伝える行為(Mass Communication=マスコミュニケーション、略してマスコミ)を論じる学問です。この情報を表現する手段は、以前は言語が主でしたが、最近では映像に比重がかかっています。学校では言語(日本語、外国語)の勉強はしてきましたが、映像の見方や描き方の勉強はなおざりです。これではいけません。講義では映像に焦点を当て、映像教材を多用して説明します。 | | |
| 成績評価法 | 採点は学年末のレポート内容70点、平常点30点で計算します。 | | |
| テキスト | 指定しません。毎回プリントを配付します。 | | |
| 参考書 | 講義のたびに紹介します。 | | |
| 履修に当たっての注意・助言 | <注意>「マスコミ論」を2単位だけとる人は、なるべく「マスコミ論A」(前期)を履修して下さい。B(後期)は前期の講義の応用編的内容です。 | | |
| 講義計画 | | | |
| 序・講師の自画像(VIDEO) 第7講 脳の中の映像と言語 (講師は元 TV ディレクター) 第8講 映像と言語の比較 <映像の歴史> 第9講 映像表現法①(撮影) 第1講 現代の代表的マスコミ 「新聞と放送」概観 第10講 映像表現法②(編集) 第2講 映像の時代の意味 <映像表現の害と利点> 第3講 歴史一絵画から写真へ 第11講 ナチスと映画 第4講 歴史一動く映像の発明 第12講 嘘つき映像の歴史 第5講 歴史一初期の映画 第13講 米国の政治とTV映像 <映像の表現の特徴と技法> 第14講 映像との付き合い方 第6講 映像認知の仕組み | | | |